

東吉野村

平成 31 年度水質検査計画

●水質検査計画とは

水質検査計画とは、水道法施行規則により各施設における水道の水質に応じて水質検査項目や検査頻度等を定めるものです。

●目次

- 1 基本方針
- 2 水道事業の概要
- 3 水源の状況並びに原水及び浄水の水質状況
- 4 検査地点
- 5 水質検査項目及び検査頻度
- 6 水質検査方法
- 7 臨時の水質検査
- 8 水質検査結果の評価と水質検査計画の見直し
- 9 水質検査結果の公表
- 10 水質検査の精度と信頼性の確保
- 11 関係機関との連携

1 基本方針

安心で信頼のできる水を供給するため、施設の管理を適正に行い、適正な水質検査項目、検査頻度、採水場所の選定を行い、適切な判断により需要者が安心、信頼できる水道経営を目指します。

2 水道事業の概要

東吉野村簡易水道事業は、大字小川区域の一部、大字小区域の一部、大字木津川区域の一部、大字小栗栖区域の一部、大字中黒区域の一部、大字鷺家区域の一部、大字三尾区域の一部、大字狭戸区域の一部、大字大豆生区域の一部、大字大又区域の一部、大字麦谷区域の一部、大字萩原区域の一部、大字伊豆尾区域の一部、大字日裏区域の一部、大字木津区域の一部、大字杉谷区域の一部、大字平野区域の一部、大字滝野区域の一部、大字谷尻区域の一部、に供給しています。

施設名	水源地	処理能力 (m ³ /日)	給水人口 (人)	処理方法
小浄水場	高見川	600	688	膜ろ過
木津川浄水場	高見川	24	53	緩速ろ過
鷺家浄水場	鷺家地区	520	224	緩速ろ過
文珠浄水場	文珠地区	17	8	緩速ろ過
三尾浄水場	四郷川	101	117	緩速ろ過
狭戸浄配水場	狭戸地区	24	32	緩速ろ過
大豆生浄水場	大豆生地区	59	41	緩速ろ過
大又浄水場	四郷川	67	42	緩速ろ過
麦谷浄配水場	麦谷地区	18	27	緩速ろ過
日裏浄水場	日裏地区	10	5	緩速ろ過
杉谷浄配水場	杉谷地区	253	271	緩速ろ過
平野浄水場	平野川	153	133	緩速ろ過
滝野浄配水場	平野川	5	9	緩速ろ過
谷尻浄配水場	谷尻地区	12	20	緩速ろ過 上高ろ過

※平成29年3月時点

3 原水及び浄水の水質状況

原水の水質は、各取水上流における環境汚染等の可能性は低く、年間を通じて良好で安定しています。しかし、梅雨や台風等の降雨時に濁度や色度等の上昇が考えられることから、各施設にて適切な対応を行い、安全で良質な水道水を供給しています。

4 検査地点

- ・給水栓

水道法に基づく定期的な水質検査は、各浄水場施設の1カ所以上の給水栓で行います。

- ・原水

原水の水質が安全で良質な水道水を供給するための浄水処理に影響を与えるため、各浄水場施設の原水について水質検査を行います。

5 水質検査項目及び検査頻度

① 給水栓

各施設の水質検査は別表のとおり行います。

- ・ 1ヶ月に1回の検査項目（毎月検査項目）

一般細菌 大腸菌 塩化物イオン 有機物 (TOC) pH 値 味 臭気 色度 濁度

- ・ 概ね3ヶ月に1回の検査（省略不可項目）

シアン化合物イオン及び塩化シアン 塩素酸 クロロ酢酸 クロロホルム ジクロロ酢酸 ジブromokロロメタン 臭素酸総トリハロメタン トリクロロ酢酸 ブロモジクロロメタン ブロモホルム ホルムアルデヒド
--

- ・ 検査回数を省略できる項目

下記の健康に関する項目、性状に関する項目27項目について、過去3年間の検査結果が全て基準値10%以下の場合は3年に1回以上、20%以下の場合は1年に1回以上検査回数を省略できることができ、過去の検査結果及び原水の水質を考慮し検査を行います。

カドミウム及びその化合物 水銀及びその化合物 セレン及びその化合物 鉛及びその化合物 ヒ素及びその化合物 六価クロムその化合物 亜硝酸態窒素 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 フッ素及びその化合物 ホウ素及びその化合物 四塩化炭素 1,4-ジジオキサン シス/トランス-1,2-ジクロロエチレン ジクロロメタン テトラクロロエチレン トリクロロエチレン ベンゼン 亜鉛及びその化合物 アルミニウム及びその化合物 鉄及びその化合物 銅及びその化合物 ナトリウム及びその化合物 マンガン及びその化合物 カルシウム、マグネシウム等（硬度） 蒸発残留物 陰イオン界面活性剤 非イオン界面活性剤 フェノール類
--

- ・ かび臭項目検査

かび臭を産出する藻類の発生が少ないことが明らかであると認められる時期を除き、1ヶ月に1回以上、下記の2項目について検査を行います。

ジェオスミン 2-メチルイソボルネオール

ジェオスミン 2-メチルイソボルネオール

- ・1日1回以上、下記の項目について検査を行います。

色 濁り 消毒の残留効果（残流塩素）

② 原水

原水の水質は、浄水処理に与える影響が大きいため、水質検査項目51項目のうち、味及び消毒副生成物11項目を除く39項目（表）及びアンモニア態窒素の検査を1年1回以上行います。

6 水質検査方法

1日1回水質検査（毎日検査）については、自己検査を行います。

水質検査項目及び水質管理目標設定項目については、奈良県下38市町村の一部事務組合である奈良広域水質検査センター組合に検査を委託し行います。

7 臨時の水質検査

水源から給水栓の間で、次のような問題が発生した場合は、臨時の水質検査を行います。

- (1) 水源の水質が著しく悪化したとき
- (2) 水源に異常があったとき
- (3) 水源付近、給水区域及びその周辺において消化器伝染病が流行しているとき
- (4) 浄水課程に異常があったとき
- (5) 配水管の大規模な工事、その他水道施設が著しく汚染されたとき
- (6) その他特に必要があると認められたとき

8 水質検査結果の評価と水質検査計画の見直し

水質基準は水道水において満たすべき要因であるため、検査結果の評価は検査ごとに行います。また、検査結果を基に必要に応じて検査項目及び検査頻度等の見直しを行います。

9 水質検査計画の公表

水質検査計画は前年度計画を見直し、作製し本村のホームページに公表します。

1 0 水質検査の精度と信頼性の確保

奈良広域水質検査センター組合にて、水質検査の精度管理等を行うことにより信頼性の確保を図っています。

1 1 関係機関との連携

水源等の水質汚染事項が発生した場合、奈良広域水質検査センター組合、奈良県地域政策課、吉野保健所、近隣市町村と情報交換をするとともに連携して迅速に対応を講じます。